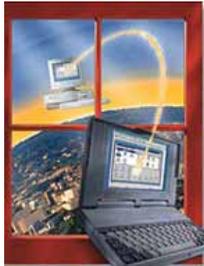


CMC空間の社会学的意味 A. Giddensのモダニティ論を 手がかりに



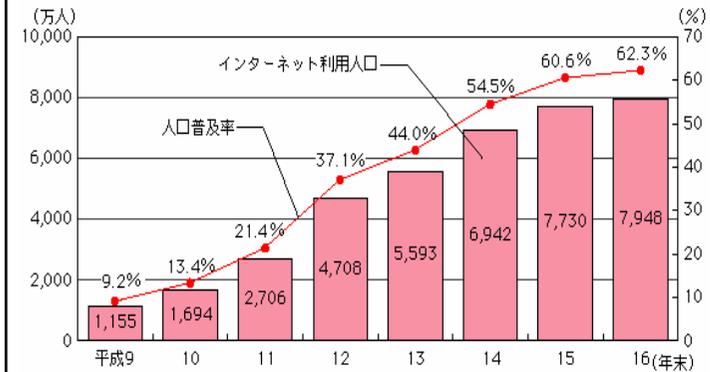
Dec.14, 2005
情報・史料学ワークショップ

京都大学
高等教育研究開発推進センター
吉田 純



1

インターネット利用人口及び人口普及率 (平成17年版「情報通信白書」)



1 CMC空間論の布置

- CMC (Computer Mediated Communication) 空間についての二つの代表的言説:
楽観論 vs. 悲観論
- 「コミュニティ」というキーワード
 - 「インターネットは新たなコミュニティを創り出すのか、それともコミュニティを破壊するのか」(Wellman)



アカデミックなCMC研究においても分水嶺



3

(1) FTFとの断絶論(悲観論)

- 初期(1980年代)のCMC研究
- 視覚的匿名性 (visual anonymity)
- 社会的手がかり(social cues)の欠如
 - 表情・身振り・口調など、FTF (Face To Face communication) での手がかりとなる非言語的情報
- 社会的・感情的・人格的次元の欠落
- CMCをめぐるネガティブな言説の原型
 - Flaming, 誹謗中傷、ネット犯罪.....



4

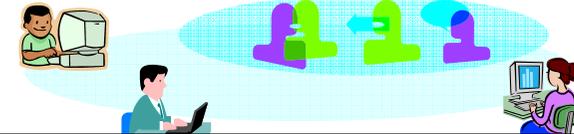
(1') ポストモダニズムのCMC空間論

- CMCがFTFの欠如態であるというネガティブな価値評価 そのままポジティブに反転
 - 「匿名性」 FTFにおいて重要な役割を果たす要因 (地位・カリスマ性・修辭的技術・ジェンダー・など)を無効化
 - 「参加の平等性」、「権力の脱中心化」、「直接制民主主義」を実現 (M. Poster)
- (1)(1')の共通点:
CMC空間とFTF空間との**断絶性**を強調
 - 前者を後者との対比によって評価

5

(2) FTFとの連続論(楽観論)

- 1990年代の新たな潮流
 - 研究方法 = 参与観察・エスノグラフィー
- CMC空間を、FTF空間と**連続**した空間としてポジティブに評価
 - CMCを「創造的に使いこなす」ことによって、社会的手掛かりの欠如を「克服」
 - E.g. 顔文字(emoticon) (^_^) (:_;) m(_ _)m
 - 「豊かな関係性」に基づく**コミュニティ**の形成



(2') 近代主義的CMC空間論

- ネットワーキング論
 - CMCによる「地縁」「血縁」からの解放
 - 「情報縁」による「ネットワーキング」への期待
- ネット公共圏論 (J. Habermas)
 - CMC空間における**公共圏**の構築への期待
 - モダニティの規範性を継承
- (2)と(2')の共通点:
CMC空間とFTF空間との**連続性**を強調

7

断絶論・連続論に共通する前提

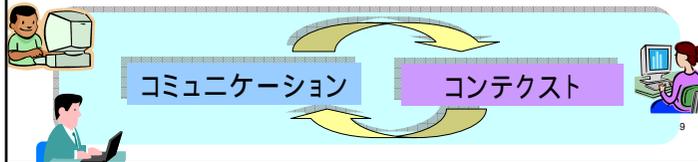
- FTF空間のリアリティが自明の基準 = 理想
 - そこからの**距離**によってCMC空間を評価
 - CMC空間の**固有性**を積極的に対象化することは理論的に困難



8

(3) 再帰性 (reflexivity) 論

- コミュニケーションの再帰性(自己準拠性)
 - コンテキスト(=コミュニケーションが可能となる条件)はコミュニケーションによって再帰的に構築される
- FTF空間・・・コンテキストが安定 / 不自由
- CMC空間・・・コンテキストが不安定 / 自由
 - コンテキスト不安定 FTF空間との分離 **断絶論**
 - コンテキスト自由 FTF空間との接続 **連続論**



「リアリティ」への問い

- コンテキスト構築の自由
 - 多様なリアリティ構築の可能性
 - FTF空間から意図的に離脱するリアリティ
 - 匿名掲示板 (2ちゃんねる)
 - FTF空間を補完するリアリティ
 - Social Networking Site (mixi, GREE...)
- 二つの空間を包摂する再帰性
 - FTF空間のリアリティも同様に再帰的に構築されうるといふ点で、CMC空間と「連続」
 - リアリティ(身体感覚、アイデンティティ)のゆらぎ

10

2 モダニティ論の視点 (A.Giddens)

モダニティの3つの「源泉」:

時間と空間の分離

- 交通・通信技術、時間の管理

脱埋め込み (dis-embedding)

- 「社会関係を相互行為のローカルな脈絡から引き離し、時空間の無限の拡がりの中に再構築すること」
- 「抽象的システム」への「顔の見えないコミットメント」

- 再埋め込み (re-embedding) による補完

- 脱埋め込みされた社会関係の、ローカルな場での再編成
- より基本的な信頼 = 「顔の見えるコミットメント」



11

再帰性 (reflexivity)

- 一般的には、行為においてその「根拠」がつねに参照され、それが行為にフィードバックされていくこと
- 近代の到来とともに、再帰性は「システムの再生産の基盤そのもののなかに」入り込む
- 「社会の実際の営みが、まさしくその営みに関して新たに得た情報によってつねに吟味、改善され、その結果、その営み自体の特性を本質的に変えていく」
- **情報の再帰的モニタリング システムの自己再構築**
- モダニティの徹底化 (+ +) = 情報化
 - 情報通信技術が社会の本質的な構成要素として組み込まれ再構築されていくプロセス
 - 生活世界への浸透 **CMC空間の出現**

12

モダニティの源泉 CMC空間論の布置

- 脱埋め込み 断絶論
 - 社会関係のローカルなコンテキストからの引き離し
- 再埋め込み 連続論
 - 社会関係のローカルなコンテキストへの再接続
 - パーソナルな信頼関係の再構築
- 再帰性 再帰性論
 - CMC空間自身の再帰的モニタリングによる再構築
- 3つのベクトルの合力 = CMC空間
 - **モダニティの徹底化を集約的に具現した社会空間**

13

Epilogue: 情報化のアンビヴァレンス

- 連続性の言説は、互いの「顔が見えない」空間においても「顔の見えるコミットメント」が可能であるかのようにCMC空間を描写
- そのような記述のためのキーワード = 「コミュニティ」
- **CMC空間はなぜ**(しばしば規範論・理想論的に)**コミュニティ概念と結びつけられてきたのか**
 - CMCがもたらす「情報的な近接関係」
 - 「共有された情報を基礎とする共同性意識の生成」
 - Cf. B・アンダーソン『想像の共同体』

14

近代主義的CMC空間論のアポリア

- コミュニティのアンビヴァレンス
 - 内部における普遍的価値の共有・連帯
 - 外部に対する閉鎖・排除・敵対
 - 情報化は、「マクルーハンが想像していたようなユニバーサルで包括的な共同性へと向かうという方向ではなく、逆に分散的で排他的な共同性へ」社会を導く(大澤1999)
- コミュニティ概念の無反省(un-reflexive)な導入
思想的自己矛盾
- 公共性 / 公共圏へと開かれうるreflexiveな
コミュニティの構築は可能か

15

参考文献

- 加藤晴明 1999 「CMC空間と自己物語 コンテキスト論争と閉ざされた主題」『中京大学社会学部紀要』第14巻1号
- 土橋臣吾 1999 「コンピュータ・ネットワークのコミュニケーション論 CMC研究およびその背後仮説の批判的検討」『社会情報学研究』第3号
- アンソニー・ギデンズ 1993 「近代とはいかなる時代か? モダニティの帰結」松尾清文・小幡正敏訳、而立書房
- 大澤真幸 1999 「電子メディアの共同体」(吉見俊哉 他『メディア空間の変容と多文化社会』、青弓社)
- 吉田純 2005 「思想的アリーナとしての情報社会論」(水谷雅彦編 応用倫理学講義 3 『情報』、岩波書店)

16